

オリエンタノ便り

お客様各位

拝啓 新緑の候、貴社ますますご盛栄のこととお慶び申し上げます。平素は格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

*最近読んだ記事を下記にまとめてみました。

——「共謀罪」の趣旨を盛り込んだ組織的犯罪処罰法改正案は23日の衆院本会議で可決され参院へ送られる見通しだ。国連特別報告者が2度にわたって懸念を表明し「プライバシーや表現の自由を制約するおそれがある」と指摘しているのにもかかわらず。

政府はオリンピックを前にした「テロ対策」だと主張しているが、オリンピックと無関係に過去三度提案されたことを考えても、窃盗から公職選挙法違反まで刑法全体の書き換えに近いということを考えても、「テロ」とは噛み合わない。

共謀罪の核心は、人々の日常のコミュニケーションが犯罪化される、という点にある。合意すること、相談すること、言葉に出すことで犯罪が成立するのだから、警察は私たちのコミュニケーションそのものを捜査対象とすることになる。(中略)法務省刑事局長の国会答弁によれば、言葉とは限らず、目配せでも成立するというから、成立要件は限りなく捜査機関の「解釈」の問題になる。しかも犯罪と規定されるもの全般、676もの犯罪が対象になる！ 引用終り ——

「政府が【共謀罪】制定の根拠とする【国際組織犯罪防止条約】はテロを目的としておらず、この条約の目的は、＜金銭的目的その他物質的利益を得ること＞とあえて明記されている。イデオロギー由来犯罪に対しては別の国際条約で制定済みであり、国際組織犯罪防止条約締結の為には、あえて【共謀罪】を制定する必要は無い。」と、国連の「立法ガイド」の執筆者であるパッサス教授が明言したといます。目的を誤魔化してまで制定したいとすれば、その真意とは一体？と訝しい思いを禁じ得ません。

そこで思い出したのがオリバー・ストーン監督の「スノーデン」と言う映画でした。

スノーデンがなぜ世界最強の権力に一人で抗し、極秘文書の数々を暴露したのかがドラマの軸でしたが、その決意の要因となったのは権力による監視システムの無制限な拡大でした。今日本も同じ状況になりつつあると思うと恐ろしくなります。

この新緑の美しい季節に何とも辛い内容を書いてしまいましたが、子供たちの未来のためにも真実を知りたいと願います。

私にとってその事が日々を生きるエネルギーになっています。

何卒今後とも宜しくお願い申し上げます。

敬具

平成 29 年 5 月 31 日

花輪麻美

